nanmori.letter

第２号

南魚沼森林組合　組合報
発　行　　令和５年３月20日
発行責任者　組合長　関正太郎
南魚沼市舞子1819
電話　025－783－3349

使い勝手の良さに心が動いて

里山再生整備事業

谷地区長
米山恒夫

１　里山の現状

当集落は西を除く三方を山で囲まれ、里山にはほとんど杉が植林されている。そのため、ここ数年は猿の出没が多く農作物の被害に手を焼いていた。一方で、水路には杉の葉が詰まり、江浚いはほとんどその対応に割いている。春先の杉花粉とともに、集落では対応に苦慮している。

２．チャンス到来（取り組みの動機）

４月の行政区長会で、市長から里山再生整備事業についての説明があった。害獣対策の一環であるという。タイムリーな提案と、使い勝手の良い事業に、心が動いた。一刻も早く申請したいと考えたのは、私だけだったろうか。願ってもないチャンスが到来したのである。

直ぐに市の担当者を訪問した。事業の中身を良く教えていただくためである。ポイントは２つ。確実な見積りと、所有者の承諾を得ること、だった。

３．課題とルール

森林組合の職員と現地を歩いた。山にはまだ雪が残っていたが、そこで伐採の範囲を決めて、所有者の確認と見積りを出していただくこととした。

所有者が確定すると常会で説明、所有者の了解をいただいた。説明のポイントは、立木の伐採であるため所有権移転は行わず、無償で伐採を行うこと。そのルールに賛同できない所有者は伐採の範囲から除き、自己責任で管理していただくよう要請した。

立木の伐採費用が高額で日照等にも影響を及ぼしていたことから、集落の所有者からは全員の同意をいただいた

４．所有者への対応

所有者は、集落１４名、集落以外Ｉ０名。集落以外の所有者には個別にルールや施工方法を説明し、全員から気持ちよく同意していただいた。

市への補助金申請を経て、６月５日には起工式を行うことができた。

５．森林組合との協働

正直言って、森林組合からのアドバイスがなければ、ことは順調に運ばなかった。専門知識の乏しい集落にとって、見積りや現場に合った施工方法など、考えることもできなかった。集落の対応が速かったこともあり、森林組合の担当者からは、丁寧な指導をいただいた。すると、自然と役割も見えてきて、所有者にもそれなりの説明ができたと考えている。

６．今年度の成果

堰堤工事との競合もあり、本体の着工が２ヵ月ほど遅れてしまった。それでも予定していた業務は、降雪前に終了することができた。今年度の成果で一番大きなことは、山中に作業道を切って対応したことである。コストの削減を考慮したものだが、終了後は、利活用ができると考えている。例えば遊歩道、山の涼しい風を受けて散策できる。そして何よりも、山に親しむツールとして活用できるのである。

７．今後の展望

日本全国津々浦々で、人口減少、少子化の問題が顕在化し、その対応に苦慮している。理由は色々あろうが、情報戦略や人への投資の問題が思うに任せないまま、今日に至ったことが、その大きな要因ではないかと考えている。

情報戦略については、ツールに依存することなくそれを正しく使うこと。人への投資については、農業や里山を通じて、自然の摂理とここで暮らす豊かさを再認識することであろうと考えている。

この里山再生整備事業は、そうした可能性までも示唆した事業であり、地域の課題を抽出し価値観を共有することで、展望は開けるものと確信している。

写真上＝県水源林造林協議会の大皆川団地視察
（平成４年10月17日）
同左＝ふるさと里山再生整備事業で整備された谷地区の里山

新たな「育成複層林」これから地拵え・植林

組合は今年度湯沢町土樽の向原・大皆川で「育成複層林」という新たな事業に取り組みました。湯沢町、組合　森林整備センター（旧森林開発公団）の三者契約の林です。―複層林とは!伐期を迎えた林を一斉に伐採するのではなくモザイク状に伐採しそこを再造林する施業方法です。センターの担当者から話をいただいたのは、２０２１年春頃でした。「大皆川は道が整備されているので施業は可能ですか？」という事でした。

団地全体の実質契約面積は４０㌶に近くになるうえ施業するに当たり、解決しなければならない課題も多々あり、組合内はもちろん整備センターとも検討、協議を重ねました。いよいよ２０２２年春に林道の除雪から施業がスタートし、技術員の活躍によって秋には２、４２haの伐採、搬出を事故なく完了する事ができ、搬出した材積は約１７００㎥になりました。２０２３年春からは今回の伐採区画の地拵え、植え付けと、併行して次の区画の伐採が始まります。そうなれば間伐の３～５倍の木材が搬出されます。それに対応するアクセス道路の整備が急務です。

また再造林を行う場合、樹種を再度杉にするのか、広葉樹や他の針葉樹を植えるのか、３０年５０年先を考えた提案ができるよう、準備が必要です。

組合18歳、成人の原点
森林プロの集団で自立

組合長御挨拶

関正太郎

組合員の皆様方におかれましては、雪を利用し、あるいは負けずにご活躍のことと思います。

さて当組合は平成16年11月25日に南魚北森林組合と南魚沼南部森林組合が合併総会を開き南魚沼森林組合の設立を決めました。実質のスタートは平成17年2月ですから今年18歳になりました。成人を迎えたことになります。この間草刈り機とチェンソーに特化した組合として間違なくしっかりとした成人に育ちました。これも偏に組合員各位と、これまでの役員そして職員・技術員各位の御尽力の賜物と改めて感謝申し上げます。

これまでは卓越した先輩各氏の指導で立派な成人になりましたが世代交代は必ずあります。自立することが、先輩に対しての御恩返しになります。

組合は昨年、令和5年度からの中期5ケ年計画を策定しました＝別掲。これを常に見直しながら新たな道を進んで行きますが、それには過去を振り返ることが大切です。

事業総収益は平成25年の3億1700万円が最高でした。3億円未満2億8000万円以上が6期ありました。当期剰余金が赤字の年が6期ありましたがいずれも構造的なことではなく次年度は回復しています。

この間この業界がどのように推移したのか感覚的にごく大雑把に言えば、現場作業をする人が減少するのに伴い仕事の依頼はお陰様で安定してありました。

林業の従事者不足を解消しようと平成8年に始まった「認定林業事業体制度」が素材生産では確実に実績を上げ、平成30年の法律で始まった「意欲と能力のある林業経営体制度」など行政は林業従事者を増やそうと力を入れています。

しかしこの間産業としての林業は緩やかに衰退し、山そのものの価値が低下し続けて来たのが実感です。森林環境譲与税は「そうしなければ山はもはやどうにもならなくなった」ということの裏返しです。

ではこれからもこうした傾向は続くでしょうか？私はそうは思いません。これから変化は急激に来ると思います。安全と法令遵守を土台にして作業の機械化・省力快適化を進めさらに実作業だけでなく今後公的な森林整備がさらに進むので関係法令や申請・確認などの実務能力を高めなければなりません。

そうしたプロの集団を2千800人組合員から支えて頂ければ、ほかのどの組織とも違う業界をリードする組合になれると信じています。それが成人の原点です。

中期計画（令和５年度～９年度）

経営理念

私達森林組合は森林管理の担い手として、森林の持つ公的機能の維持・増進を図り、森林資源の適正な管理や利用を通じて、森林を価値ある財産として次世代に継承します。

基本方針

1　組合員サービスの向上
2　働く人の所得向上・就業環境改善
3　事業拡大・効率化による経営の安定
4　組合の社会的認知度の向上と組合員ニーズの対応
5　コンプライアンス態勢の強化

職員と技術員

を募集しています

問い合わせは組合総務課

山林地籍調査の研修
奈良県の航測実施森林組合と情報交換

「国土調査実務者講習会」と「航測法を用いた先進森林組合との意見交換会」が2月21日～22日の両日東京で開かれ、組合から組合長と職員3人が参加しました。

―講習会に、自治体関係者ら約400人が受講しました。講義の内容は6項目と多岐長時間に及んだが森林に関しては「山村部での地籍調査と航測法を使った地籍調査の流れや取り組みの状況」として国交省の地籍整備課の西本係長が話し「令和1年に始まった航測法の実施市町村状況は令和3年度までの21市町に加えて令和4年度は新たに11市町村が実施した」と話しました。

―翌日の「先進森林組合との意見交換会」では、奈良県がした航空測量データを使い今年度から山林の地籍調査を進めている同県の天川村役場職員とその受託者天川村森林組合職員が当組合職員と意見を交わしました。航測地籍調査ではとりわけ進捗・工程管理に必要となる地籍アドバイザー佐藤修さんが工程を解説しました。

チームはコミュニケーション
荻原真人

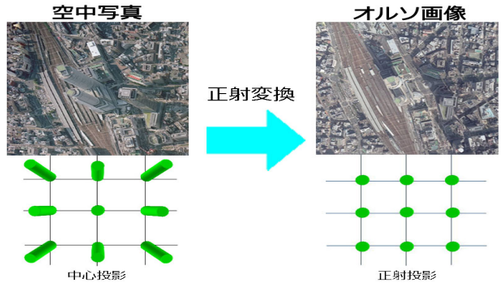
まずは皆さんお疲れ様です。今年五年目を迎える荻原です。今回は四年間森林組合で学んだ事、感じた事を書かせて頂きます。

①学んだ事は技術的な事はもちろんですが、一番はチームで仕事をする事の大切さだと思います。日々現場で仕事をする際に一日の動き方や手順を全員が把握し、効率良く安全に作業を行う為にはしっかりとコミュニケーションをとり、お互いを理解しながら行動をしなければいけません。ましてや立ち木の伐採等は大変危険な作業なのでコミュニケーションがとれていなければ死亡事故の可能性もある作業です。このように「チーム」＝「コミュニケーション」だと思います。これが出来ている職場は正直少ないと思います。私が以前働いていた職場では個人プレイが目立ち個人商店の集まりのようで効率良く仕事をする環境ではなかったです。コミュニケーションがしっかりとれている事が森林組合の一番の強みだと思いますし、私が一番学べた事です。

②次に感じた事ですが、二年目の緑の雇用に参加した際の事です。

一年目と全く同じ内容の授業だった為、私が講師の方に「去年と同じ内容ですが一年生と二年生の授業間違えてないですか？」と伝えた所毎回同じ内容で授業しているとの返答でした。これでは資格を取る授業以外は去年と同じ授業になってしまう為、全く学べる所がなかったです。正直時間の無駄だと感じています。要望になってしまいますが、同じ内容で授業をするくらいなら新しい分野の授業をして頂きたいですし、無理なら日数を減らし、現場での作業をさせて頂いた方が成長になると思いますので書かせて頂きます。

最後になりますが、今年も安全第一でケガや事故なく作業を前詰めでやっていきます。皆さんも頑張っていきましょう。



＜オルソ画像＞ドローンから撮影された画像を補正し、正射投影された画像を作成します。通常の地図と整合性がとれるようになります。

ドローンを入れました

組合はD×化の一環として測量用ドローンを入れました。森林整備事業の申請にあたり、ドローンで施工前・施工後のオルソ画像を用いることで従来実施していた現地測量や写真台帳の作成、申請書類の一部省略することが可能となります。また従来歩いて見ていた林地の様子も一瞬で確認できます。今後デジタル技術の変革に取り残されることの無いように組合は積極的に新技術を取り入れていきます。

（職員　根津記）

編集後記　週間予報では暖かい日が続くようです。年明けから小雪であったものの、夜中朝方の底冷えする寒さはまだ残っていて、もう少しストーブの前に座るという朝のルーティーンが続くと思います。今年度もいいスタートが切れるよう雪解けに合わせて現場の準備も始まります。（N・R）